

令和5年度第4回市民協働活動審査会 要録

日時:令和6年3月19日(火) 15:00~16:15

場所:郡上市役所本庁舎 4階 大会議室

出席者:審査委員

笠野信男、武藤里恵、乾松幸、上村英二、青木修、三輪幸司

事務局

三島政策推進課長、木嶋課長補佐、牧野主任

欠席者:なし

傍聴者:なし

(13:30)

1. 開会

事務局 審査に先立ち、郡上市市民協働活動審査会設置要綱第6条第3項に、審査会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができないとある。委員6名全員出席であるため、過半数を超え、この審査会は成立することを報告する。

2. 開会挨拶

(会長より挨拶)

3. 審査会進行・審査資料に関する説明

(事務局より進行、審査方法等について説明)

4. 魅力ある地域づくり推進事業補助金交付申請に関する審査

(進行を会長に交代)

①「魅力ある地域づくり推進事業補助金 地域課題解決部門」

六ノ里地区活性化推進の会

事務局 審査会進行についての説明(説明及び事前質問回答15分、質疑応答15分)

申請者 自己紹介と事業を説明

ふくもち園という場所が30年間そのままになっていたのを有効活用して、子どもたちをつなぎ留めたいと考えて、シニアと子どもたちをつなぐ場所を目指している。

事業については庇屋根を設置し、日除けと雨除けを行い、安全に過ごせる場所

にする予定である。また、草刈りや子どもたちと畑をつくり、収穫を考えている。8月には地元の小学校の児童を呼んで、魚釣りや川遊びをさせる予定をしている。

事前質問・回答

①前年の実績・参加人数をご説明ください。

申請者 前年の実績は、会員に営業日40日出役してもらった。また、六ノ里の子どもたちとシニアの交流会を行ったり、野菜の苗を植えた。これに合計で30人参加した。

②前年度に整備した箇所(休憩所等)を写真をもってご説明ください。

申請者 令和4年度は池の泥上げと土砂入れなど周辺の整備、令和5年度は休憩所の屋根材葺き替えを行った。

③昨今、コクチバスやニジマスの長良川への流出が県内で問題になっているが、ふくもち園の釣り堀は流出防止の対策ができていますでしょうか。

申請者 ニジマスの流出防止用のステンレス製の隙間10ミリのスクリーンを設置している。

④休憩所の整備によって、どのような効果を得られるのかご説明ください。

申請者 現状の休憩所では10人くらいしか休息できないため、簡易テントで対応してきたが、テントの収納等の手間を軽減できる庇を設置し、土間にコンクリートを打ち、安全に休息できることが良い効果になる。

⑤内容が前年度の申請と同じですが、実際に六ノ里地区の交流や地域おこしの核となる場所づくりになっているのかをご説明ください。

申請者 六ノ里地区活性化推進の会の目標として、地元の子どもたちとの交流をすることによって、一度地元を離れていても、いつか地元の良さを思い出してもらえるきっかけになると思う。去年、都会の親子がマス釣り、つかみ取りを体験して、環境の良さを実感していただき、「今度また来ます」という一言をいただいた。このようなことがつながりを持てるのでないかと考える。

⑥予算のほとんどが委託費ですが、委託以外に六ノ里地区活性化推進の会で実施され内容をご説明ください。

申請者 休憩所を利用してシニアクラブ中心のおしゃべりカフェを随時開催する。また、耕作放棄地を再開発し、子どもたちとともにトウモロコシ、サツマイモを植える計画である。

⑦自己資金について、過去の実績に比べて過去最大になっていますが、全て寄付金で賄われるのでしょうか。

申請者 繰越金、寄付金の残金と年会費で対処している。

質疑応答

委員① 庇の設置について、積雪の対策はしているのか。

申請者 庇は可動式にして、夏場は持ち上げて、冬場は壁にするようにする。

委員② 六ノ里地区は地域おこし団体が多くある。そこについて教えてもらいたい。

申請者 これだけ過疎化になって子どもがいなくなって、この後10年経ったらどうするかの時に、「分からない」としか言えない。しかし、地固めをしておかないとせっかく先人が残した土地が荒れてしまう。役員がしっかりしておかないといけない。

委員③ 今、27歳から36歳の人少しずつ都会から戻ってきている。このような活動で地域を守っていき、駄目にならないようにしてもらいたい。今の子どもたちは川などと親しむようにしていかないといけない。

②「魅力ある地域づくり推進事業補助金 市民活動部門(地域づくり助成型)」

やま森マルシェ実行委員会

事務局 審査会進行についての説明(説明及び事前質問回答15分、質疑応答15分)

申請者 自己紹介と事業を説明

やま森マルシェは、高鷲町の20代、30代の若者が地元を盛り上げ、自身の仕事へのやりがいを深めるべく企画したイベントである。近年、高鷲町の若者たちが様々に活動していることから、その仕事を一堂に集め、発信する機会として、楽しみながら自慢できるイベントを実施したいと思い計画した。

メインとなるのはマルシェで、飲食体験やクラフト作品の販売などを行う。出店者は主に高鷲町内関係者で、来場者には高鷲町の魅力を一度に感じてもらえるイベントにした。今回の春の会には、マルシェや夜桜鑑賞のアフターパーティーも計画している。国や県などからの補助金を利用せず、出店料や寄付、協賛で運営を予定している。

この活動は継続的に行われ、高鷲町の新たな魅力となる団体を目指している。

具体的なスケジュールは、これまで 2 回の実行委員会を開催し、今後出店に役立つ勉強会を行う予定である。3 月下旬から 4 月中旬はイベント設営を行い、4 月 13 日に開催予定で、その後すぐに反省会・成果分析を行う。

得られると予想される効果には五つある。第一に、若者が地域の新しい魅力を創造するやりがいを感じる。第二に、今までただ見ていただけの場所から消費に結びつく仕組みを作り、閑散期を盛り上げる。第三に、季節ごとの新たなイベントを行い地域住民の楽しみを増やす。第四に、若者がイベント運営のノウハウを習得し、スキルアップする。最後に、子供たちにも楽しい体験を提供し、地元への愛着を深める。この五つの効果があると考えている。

事前質問・回答

①「働く若者のモチベーションの向上とレベルアップ」にマルシェの開催をどのようにつなげていくのでしょうか。高鷲観光協会の事業の位置づけや考え方についてご教示願います。

申請者 イベントの開始により、参加者が自分の仕事を多くの人に見てもらう機会が提供され、その結果、他者からの評価を得ることでモチベーションが上がると考えている。さらに、イベントの実行委員会がレイアウトなどにこだわることで、出店者もクオリティを上げる動機付けが生まれてくる。

また、イベント終了後には来場者や出店者からのフィードバックを収集するためのアンケートを行い、それを分析して改善点を見つけ出していく。これらのデータは次回のイベントの準備段階で有用な情報となる。

高鷲観光協会の位置づけについて、やま森マルシェを支援する存在であり、その支援は協会の主要な業務の一つである。これは、観光協会が最近若者の意見をより重視する方針を採用し、その一環として地元の若者のモチベーションを上げる目的で実施する活動の一つとして、やま森マルシェが提案され、受け入れられたからである。

②一部の関係者の事業にならないような公益的なマルシェを目指していますでしょうか。

申請者 公益的なマルシェを目指している。若者を中心とありますが、企画を進めることが若者の役割の大きな部分で、出店者の年齢層は様々である。

また、地域団体にも出店をしていただき、事業化はしていないがマルシェの出店を試みたいという地域の方がいたら、出店できるようにしている。

③地域資源の活用とありますが、具体的に高鷲町の何を活用するのでしょうか。

申請者 高鷲町の自然の条件、自然環境を活用することを考えている。

マルシェの会場の選定は、収益性というよりもレイアウトを重視しようというのがやま森マルシェ実行委員会の考え方である。

秋は分水嶺公園の紅葉の下でマルシェを行い、そして春の会は桜の下で、また広場として使えるたかす町民センターを会場として選定をした。夏の会は、これから考えていく予定である。

今までは通り過ぎるだけだった場所、また地域の人も知らなかったような景色を使って、そこで滞在して、楽しむ消費をしてもらうという活用を考えている。

④4月以降2回マルシェを実施するとありますが、4月と同じようにマルシェを開催するにあたり、財源をどのようにされるのかをご説明ください。また、今後の補助金の活用予定はございますか。

申請者 夏、秋の2回については自己財源を確保して実施をする予定である。

この自己財源であるが、今回のイベント以外に、小規模で地域住民を対象とした、集客型のイベントなどを実施、また実際に自分たち実行委員会としてマルシェで物販を行うということも計画をしている。

また、マルシェ内でも無料であるが、自分たちの企画自体を一部有料化する、また入場料を取るなど収益につなげていく予定である。

デザイン面の費用が今回の春のマルシェで完了するものが多いため、今後支出は大きく減る予定である。

補助金については、今回春の会で活用するが、1年間通じて、どこが一番比重が大きくなるかなどを相談して、利用可能な範囲で、1年に1回このような形で申請を出したいと考えている。

⑤次世代の若者がこのイベントに関わりたいと感じられるイベントにするとありますが、実際にこのマルシェにどれくらいの若者が関わっているのでしょうか。

申請者 実行委員会は20代30代のみで10名構成しており、事務局含めて11名で実行委員会は開催している。

その他出店者として、高鷲町出身者在住者の若者が30名ほど関わっているため、合計で40名ほどが現状関わっている。

今後もこういった若者も関わってくるイベントを考えている。

⑥高鷲町の桜のライトアップとありますが、夜までマルシェを開催するのでしょうか。マルシェそのもののスケジュール(4月に桜が咲いているか)や内容(場所等)をご説明ください。

申請者 10時から16時までを日中のマルシェとして開催し、18時から21時までを、桜のライトアップをするアフターパーティーとして開催する。

日中は35店舗ほど体験、クラフト、飲食を集めるが、夜は飲食だけ5店舗残して開催する。

また桜の開花の時期については、高鷲町の大鷲地域は例年4月中旬に桜が開花し、今年はそれよりも1週間早い予報であるので、このまま行けばよいタイミング

で開催できると考えている。

⑦4月のマルシェの開催のみで事業の効果にある「地域の新しい魅力を発見」、「スキルアップができる」や「関わっている地域の良さを実感する」ことが得られるのでしょうか。

申請者 4月のイベントが終わったらすぐに反省会をして、3、4カ月後には、次のイベント、やま森マルシェの夏バージョン、秋バージョンとなるので、実行委員会出店者はスキルアップや地域の良さの実感が定期的に迎えられるようになる。出店する方も定期的に来ていただければ、そのようなところを感じられると考えている。

地域の新しい魅力の発見については、今回まさに春の会がそれであり、4月中旬の高鷲地域は観光地として準備期間の時期になる。その期間に企画を考えて、これが成功すれば新しい高鷲町の魅力として、閑散期の時期に魅力あるイベントが開催できると考えている。

秋の会は、昨年11月に1回開催したが、今まで通過点休憩地だった分水嶺公園で、体験、食事などができる長時間滞在できる場所にすることができて、また地域の方からも、高鷲にこんなに若者がいたのかという声や、こんなお店があったのかという声を実際いただいたので、各イベントでそのようなコメントをいただけるようになって、高鷲の住民が高鷲のことをもっと知るイベントになるのではと考えている。

⑧需用費内の会議費について、ククリテラスはどのように使用するものかをご説明ください。会場使用料の場合は使用料及び賃借料に入れてください。

申請者 ククリテラスはカフェ営業をしているが、時間フリーでフリードリンクがついてくるといことで、協議事項が多く、長くなるような会議の際はククリテラスも考えている。全部の会をククリテラスで行うわけではなく、会議の会場の一つとして考えている。

⑨委託費の大部分がたかすのすに委託することになりますが、たかすのすの代表は実行委員会に入っています。実行委員会に加入している団体に補助金を回しているように見えますが、問題はありませんか。

申請者 たかすのすは、主にデザインカメラ、広告物掲示物の制作を委託している。大部分がたかすのすの委託になっているのは、初期の投資の段階で、デザインが必要な部分が多くなっているためである。

デザインは専門性が高い分野で、特にやま森マルシェは若い方に関心を持ってもらいたいイベントを目指しているため、それぞれにクオリティが求められているという状況である。

たかすのすに委託することで、専門性の高い内容を地元価格で対応してくれるという点、かつ、状況も知っている点でも柔軟に対応してくれる要望に添えてくれると考えている。

代表者が加入しているという点は間違いないが、業務の委託は格安で受けていただいているので、こちらについては問題ないこちらでは考えている。

⑩委託費のカメラマンの必要性についてご説明ください。

申請者 やま森マルシェは単発のイベントではなく、継続を前提にしたイベントのため、会場の写真を撮った写真は、すべて次回の宣伝用素材として利用する。

中途半端な素材を逆に集めてしまうとイベントの価値を下げると考えているので、カメラマンにクオリティの高い素材を取ってもらうことで、イベントの継続に繋がるといふふうに考えている。また、自分たちの姿を見ることでモチベーションアップにもつながると考えている。

⑪たかす町民センターの会場使用料についてご説明ください。

申請者 たかす町民センターはイベント当日に控え室の一つとして押さえている状況である。

小規模であるが、マルシェの時間にダンスステージも企画しており、ダンスをする子どもたちの更衣室として利用する予定である。

また、各種打ち合わせにも町民センターの研修室を利用するケースがあり、やま森マルシェ実行委員会は現状任意団体ということで、減免の対象にはならないので使用料を出している。

⑫原材料費内の消耗品(ウェットティッシュ・タオル)は需用費に入れてください。

申請者 修正をさせていただく。

質疑応答

委員④ この春はどこで実施するのか。

申請者 たかす町民センターの駐車場で実施する。周囲に桜があるので、こちらをメイン会場として計画している。

委員④ 夏はどうするのか。

申請者 現在考え中であるが、ひるがのの多目的広場か、もしくは大鷲地域にある中ノ島公園が案として挙がっている。

委員③ いずれ何かのビジネスをというところまで考えているか。

申請者 儲ける部分は、このイベントにはないが、テーマの一つとして、自分たちが負担に

思わないようにしようということもあるため、マルシェを本当に稼げる団体にするというところまで持ち上げようというのは現状ないが、持続可能にはしたいと考えている。

協賛や観光協会からの寄付をなしにしても、年 3 回運営できるだけの財源を確保するというところだけ決まっている。

委員① 観光協会の寄付金ということで、令和5年度に予算が出ていますけども、例えば令和 7 年、8 年に、継続的な寄付というのはどのようになるのか。

申請者 令和 6 年度は、春の会で寄付金をいただき、この夏の会が概算で10万、秋の会が 5 万程見ている。

令和 7 年度は、それまで自分たちで収益を上げれば、もしかしたらゼロでも実施できるかもしれない。ただ、どれぐらい自分たちが自己収益上げるかによってくるので、積極的にやる計画は今立てており、特に現場での物販や地域の小規模イベント寄り合いのような形で意見交換する会などを実施していき、その収益次第になってくる。

委員① いずれは自走というようなことを目指しているのか。

申請者 そのつもりである。立ち上げ当初から、観光協会よりそのような形で自走できるようにと言われている。

委員⑤ 荒天の場合はどのように対処するのか。

申請者 中止になる可能性が高い。

委員④ 商工会の方から何かお金が出ることはないのか。

申請者 もしかしたら、支援をしていただけるかもしれないが、具体的に話をしていない。

5. 閉会

事務局 以上をもって、令和 5 年度第 4 回の郡上市市民協働活動審査会を閉会する。

(16:15)